

分校のある風景

霜里学校便り

下里地区のみなさま、日頃より NPO 法人霜里学校の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。“分校のある風景”霜里学校便りは NPO の日々の活動をレポートいたします。インターネットでも活動の様子を随時掲載中です。「霜里学校」で検索してください。

地元の人が集える下里分校へ

6月19日(木)「下里3区老人会」の皆様が懇親会の会場として下里分校を利用して下さいました。

私もちょうど管理人をしている日だったので、少しお邪魔をしてお話をさせていただきました。

昔の話や、現在の下里をどのように思っておられるのか、人生の先輩方のお考えを直接うかがえるのは私にとって「とても重要なヒントを頂けた」そんな気がしました。

現在は多くの方々が分校に魅力を感じ訪れてくださいます。

しかし、廃校になったその背景には「地方」と呼ばれる場所が同時に抱える人口減少という課題が隠れています。しかし、そのネガティブ側面も向き合い方次第で全てがネガティブというわけでもないのかもしれない。

分校が学校として機能していた時期の記憶を共有できる人も減りつつあります、それは裏を返せば貴重な記憶を共有している数少ない仲間です。そこに年齢の差はありません。

まとまりに欠ける文章ですが、言いたいことはひとつ「地元の人たちが集まれる場所」下里分校をもっともっと追い求めていきたいです。下里3区老人会の皆様どうもありがとうございました



下里3区老人会の皆様



MOZART の食事でご歓談

下里に残していきたいもの

皆さんこんにちは。

今回は少し個人的な内容になりますが、私が思う「下里に残していきたいもの」というテーマで書かせていただきます。多分に私的な思いが含まれておりますので、その点をご容赦ください。

さて、皆さんなら、どのようなものが「残していきたいもの」として頭に浮かんでますか？

下里には、自然や風景、人とのつながりなど、さまざまな魅力がありますが、私にとってどうしても触れずにはいられないのが「下里ささら獅子舞」です。

私は現在 40 代ですが、分校に通っていた頃、「ささら獅子舞」や「こども神輿」は、夏の大きな楽しみのひとつでした。

中でも、獅子舞の舞い手は私の憧れの存在でした。

ただ、当時 2 区に住んでいた私は、どう頑張っても舞い手にはなれない立場で、そのことがかえって強い憧れを抱く理由にもなっていたのかもしれません。

そんなふうにより特別な存在として目に映っていた「下里ささら獅子舞」ですが、子どもたちの減少とともに担い手不足が深刻化し、奉納ができない年も出てくるようになりました。

この状況を「仕方ない」と受け入れるのか、それとも「残していきたいもの」として、自分に何ができるかを考えるのか。私は後者を選びました。

保存会の皆さんが、後世に伝えようと尽力してくださったおかげで、私は分校で笛を教わることができましたし、大人になった今でも、あの笛の音や太鼓の音を聞くと心が躍ります。

現在の保存会役員の皆さんも、決して楽ではない条件の中で、今年も 7 月 20 日(日)に八宮神社での奉納を決めてくださいました。

「下里ささら獅子舞」の火は、かろうじてではありますが、まだ消えていません。

私個人としても、また NPO 法人霜里学校としても、分校を残しているように、「下里ささら獅子舞」も残していきたい大切な文化だと思っています。

自分にできることから、積極的に関わっていきたいと考えています。

子育て世代の皆さん、日々忙しい毎日を送られていることと思います。

でも、今の私たちの行動が、子どもたちの世代に何を残せるかを決めていきます！

《編集後記》

今回記事としては取り上げられなかったのですが、5/30（金）に小川高校の 1 年生（200 名）が、学校行事として分校で BBQ を行ってきました。高校生を対象として分校を利用していただくことは、郷土愛や小川町への関心を育むよい機会だったと思っています。小川町を下里地区を好きになっていただくその窓口になることも、霜里学校の大きな役割と自覚して活動を進めてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

編集者 NPO 法人霜里学校 小熊 健一